

法令および定款に基づくインターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書

連結注記表

株主資本等変動計算書

個別注記表

第216期（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

東京瓦斯株式会社

連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」「連結注記表」、計算書類の「株主資本等変動計算書」「個別注記表」に表示すべき事項に係る情報につきましては、法令および当社定款に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.tokyo-gas.co.jp/>) に掲載し、ご提供しております。

連結株主資本等変動計算書

平成27年 4月 1日から
平成28年 3月31日まで

東京瓦斯株式会社

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株 主 資 本 計
当 期 首 残 高	141,844	2,065	855,776	△3,715	995,971
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高	141,844	2,065	855,776	△3,715	995,971
当 期 変 動 額					
剰余金の配当			△24,151		△24,151
親会社株主に帰属する当期純利益			111,936		111,936
自己株式の取得				△33,939	△33,939
自己株式の処分				5	4
自己株式の消却			△33,207	33,207	
連結子会社減少に伴う変動額					
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		△187			△187
当期変動額合計	-	△187	54,577	△726	53,663
当 期 末 残 高	141,844	1,878	910,353	△4,441	1,049,634

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰上損	延シ益	為替換算差額調整勘定	退職給付に係る調整累計額		
当 期 首 残 高	34,455	△1,820	43,071	△2,163	73,543	17,747	1,087,262
会計方針の変更による累積的影響額							-
会計方針の変更を反映した当期首残高	34,455	△1,820	43,071	△2,163	73,543	17,747	1,087,262
当 期 変 動 額							
剰余金の配当							△24,151
親会社株主に帰属する当期純利益							111,936
自己株式の取得							△33,939
自己株式の処分							4
自己株式の消却							-
連結子会社減少に伴う変動額							-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△8,157	△752	1,873	△15,870	△22,906	△2,846	△25,753
当期変動額合計	△8,157	△752	1,873	△15,870	△22,906	△2,846	27,909
当 期 末 残 高	26,298	△2,573	44,945	△18,033	50,636	14,900	1,115,172

連結注記表

東京瓦斯株式会社

平成27年 4月 1日から

平成28年 3月31日まで

【連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数等

連結子会社の数 67社

主要な連結子会社の名称 TOKYO GAS AUSTRALIA PTY LTD、Tokyo Gas America Ltd.、東京ガス都市開発(株)、東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)、Tokyo Gas International Holdings B.V.、(株)扇島パワー、東京ガス用地開発(株)、長野都市ガス(株)、(株)ガスター、東京エルエヌジータンカー(株)、東京ガスエネルギー(株)、(株)キャプティ、東京ガスケミカル(株)、千葉ガス(株)、東京ガスリース(株)、(株)ティージー情報ネットワーク及び(株)ニジオ

前連結会計年度まで連結子会社であった東京ガス・エンジニアリング(株)は、当連結会計年度において連結子会社である(株)エネルギーアドバンスに吸収合併されたため、連結の範囲から除外しております。なお、(株)エネルギーアドバンスは、東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)に社名変更しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数等

持分法を適用した関連会社の数 7社

持分法を適用した主要な会社等の名称

TOKYO TIMOR SEA RESOURCES INC.、GAS MALAYSIA BERHAD

(2) 持分法を適用しない関連会社のうち主要な会社等の名称等

持分法を適用しない関連会社のうち主要な会社等の名称

アークヒルズ熱供給(株)

持分法を適用していない関連会社は、当期純損益のうち持分に見合う額及び利益剰余金等のうち持分に見合う額の合計額からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用の範囲から除外しております。

3. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券については、次のとおりであります。

満期保有目的の債券の評価は、償却原価法によっております。

その他有価証券で時価のあるものの評価は、決算日の市場価格等に基づく時価法によっております(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております)。

その他有価証券で時価のないものの評価は、移動平均法による原価法によっております。

② デリバティブの評価は、時価法によっております。

③ たな卸資産(製品・原料・貯蔵品)の評価は、移動平均法による原価法(連結貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産の減価償却の方法は、主として定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)は定額法)を採用しております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

② 無形固定資産の減価償却の方法は、主として定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金は、売掛金、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権は貸倒実績率により、破産更生債権等特定の債権は個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② ガスホルダー修繕引当金は、球形ガスホルダーの周期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕見積額を次回修繕までの期間に配分して計上しております。
- ③ 保安対策引当金は、ガス消費先の保安の確保に要する費用の支出に備えるため、当連結会計年度末後に要する費用の見積額を個別に計上しております。
- ④ 器具保証引当金は、販売器具の保証期間内サービスに要する費用の支出に備えるため、当連結会計年度末後に要する費用の見積額を計上しております。
- ⑤ 債務保証損失引当金は、債務保証に係る損失に備えるため、被保証先の財政状態等を勘案し、損失負担の見積額を計上しております。

(4) その他連結計算書類作成のための重要な事項

- ① 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。
- ② のれんの償却の方法及び期間
発生原因に応じて20年以内での均等償却を行っております。
- ③ 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債（年金資産の額が退職給付債務を超える場合には退職給付に係る資産）に計上しております。

数理計算上の差異は、主として発生翌期に一括費用計上しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、主に給付算定式基準によっております。

4. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項の変更

(1) 会計方針の変更

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を当連結会計年度から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結計算書類に反映させる方法に変更しております。加えて、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

また、当連結会計年度末の資本剰余金に与える影響は軽微であります。

当連結会計年度の連結株主資本等変動計算書の資本剰余金の期末残高に与える影響は軽微であります。

なお、当連結会計年度の1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額への影響額についても軽微であります。

【連結貸借対照表に関する注記】

1. 担保に供している資産

(1) 資産の内容及びその金額

その他の設備	7百万円
建設仮勘定	32,822百万円
投資有価証券	19,515百万円
長期貸付金	30百万円
現金及び預金	4,084百万円

(2) 担保に係る債務の金額

その他流動負債	50百万円
---------	-------

2. 有形固定資産の減価償却累計額 3,674,724百万円

3. 保証債務等

(1) 保証債務 41,074百万円

【連結株主資本等変動計算書に関する注記】

1. 当期末発行済株式数 2,396,778,295株

2. 配当に関する事項

(1) 当期中に行った剰余金の配当に関する事項

① 平成27年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	12,201百万円
(ロ) 1株当たり配当額	5円00銭
(ハ) 基準日	平成27年3月31日
(ニ) 効力発生日	平成27年6月29日

② 平成27年10月30日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	11,950百万円
(ロ) 1株当たり配当額	5円00銭
(ハ) 基準日	平成27年9月30日
(ニ) 効力発生日	平成27年11月27日

(2) 当期末日後に行う剰余金の配当に関する事項

平成28年6月29日開催の定時株主総会において、次のとおり提案しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	14,340百万円
(ロ) 配当の原資	利益剰余金
(ハ) 1株当たり配当額	6円00銭
(ニ) 基準日	平成28年3月31日
(ホ) 効力発生日	平成28年6月30日

【金融商品に関する注記】

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産で行い、社債の発行や銀行等の金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、当社グループ各社ごとの与信管理方針に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

社債及び借入金の使途は主として設備投資資金(長期)及び運転資金(短期)であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブ取引は内部管理規程に従い実施計画を作成し、決裁を経た上で行うこととしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成28年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額(*1)	時価(*1)	差額
(1) 投資有価証券等	70,259	82,128	11,869
(2) 現金及び預金	170,262	170,262	—
(3) 受取手形及び売掛金	201,344	201,344	—
(4) 社債(*2)	(312,697)	(357,823)	△45,126
(5) 長期借入金(*2)	(382,693)	(420,455)	△37,762
(6) デリバティブ取引	△2,933	△2,933	—

(*1) 負債に計上されているものについては()で示しております。

(*2) (4) 社債及び(5) 長期借入金には、1年以内に返済予定のものを含んでおります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

(1) 投資有価証券等

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

(2) 現金及び預金

これらは短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 受取手形及び売掛金

これらは短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 社債

当社グループの発行する社債の時価は、元利金の合計額を当社グループ社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。当社グループの変動金利による長期借入金のうち金利固定スワップの特例処理の対象とされているものについては(下記(6)参照)、当該金利固定スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。

(6) デリバティブ取引

デリバティブ取引の時価については、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております(上記(5)参照)。

(注2) 子会社株式及び関連会社株式(連結貸借対照表計上額47,092百万円)並びに非上場株式等(連結貸借対照表計上額62,058百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(1) 投資有価証券等」には含めておりません。

【賃貸等不動産に関する注記】

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル等（開発中の土地を含む。）を有しております。

2. 賃貸等不動産の時価等に関する事項

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額	時 価
68,575	393,662

(注1)連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

(注2)当期末の時価は、主として不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額であります。

【一株当たり情報に関する注記】

- 1. 一株当たり純資産額 460円35銭
- 2. 一株当たり当期純利益金額 46円68銭

【重要な後発事象に関する注記】

1. 自己株式の取得

当社は、平成28年4月28日に開催した取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得を行うことを決議いたしました。

自己株式取得の内容は次のとおりであります。

- ・取得する株式の数
100,000千株(上限:発行済株式総数に対する割合 4.2%)
- ・株式を取得するのと引換えに交付する金銭等の内容及びその総額
現金、41,000百万円(上限)
- ・株式を取得することができる期間
平成28年5月2日から平成29年3月31日まで

2. 子会社株式の譲渡

当社は、新たなグループフォーメーション構築のため、平成28年4月1日付で、子会社である株式会社ガスター株式を同社による自己株式取得と合わせ、リンナイ株式会社へ譲渡いたしました。

- ・譲渡する相手会社
株式会社ガスター、リンナイ株式会社
- ・譲渡時期
平成28年4月1日
- ・当該子会社の名称、事業内容
株式会社ガスター(事業内容:給湯、空調、住設、倉庫事業)
- ・譲渡する株式数、譲渡価格、譲渡損益、譲渡後の持分比率
譲渡する株式数:749,800株
譲渡価格:約15,000百万円
譲渡益:約1,000百万円
譲渡後の持分比率:10%

【その他の注記】

1. 減損損失関係

当連結会計年度において、当社グループは、主として以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

(単位：百万円)

場所	用途	種類	金額
豪州クイーンズランド州スラット盆地 他	非在来型天然ガス事業	有形固定資産 (その他の設備・建設仮勘定)	14,884
米国テキサス州バーネット堆積盆	シェール開発事業	無形固定資産 (その他無形固定資産)	12,832

当社グループでは、減損損失の算定に当たって、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位によって資産のグループ化を行っております。

豪州クイーンズランド州スラット盆地他における生産・液化設備については、原油価格の下落の影響等を踏まえ事業価値の再評価を行い、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

また、米国テキサス州バーネット堆積盆における鉱区については、北米ガス価格の低迷・原油価格の下落の影響等を踏まえ事業価値の再評価を行い、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額については、使用価値により測定しており、当該使用価値は将来キャッシュ・フローを、7.4%から9.0%で割り引くことで算定しております。

2. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

平成27年 4月 1日から
平成28年 3月31日まで

東京瓦斯株式会社

(単位：百万円)

	株 主 資 本 等										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	その他の利益剰余金					利益剰余金計
		資本準備金	資本剰余金計	利益剰余金		固定資産圧縮積立金	資産圧縮積立金	海外投資等損失準備金	原価変動調整積立金	別途積立金	
当期首残高	141,844	2,065	2,065	35,454	1,607	13,129	141,000	339,000	119,973	650,165	
会計方針の変更による累積的影響額											
会計方針の変更を反映した当期首残高	141,844	2,065	2,065	35,454	1,607	13,129	141,000	339,000	119,973	650,165	
当期変動額											
固定資産圧縮積立金の積立					17				△17		
固定資産圧縮積立金の取崩					△56				56		
海外投資等損失準備金の積立						134			△134		
海外投資等損失準備金の取崩						△894			894		
別途積立金の積立											
剰余金の配当									△24,151	△24,151	
当期純利益									93,566	93,566	
自己株式の取得											
自己株式の処分											
自己株式の消却									△33,207	△33,207	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)											
当期変動額合計	-	-	-	-	△38	△760	-	-	37,004	36,206	
当期末残高	141,844	2,065	2,065	35,454	1,568	12,369	141,000	339,000	156,978	686,371	

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等				純 資 産 合 計
	自己株式	株主資本計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
当期首残高	△3,715	790,360	33,765	△13,159	20,605	810,965	
会計方針の変更による累積的影響額						-	
会計方針の変更を反映した当期首残高	△3,715	790,360	33,765	△13,159	20,605	810,965	
当期変動額							
固定資産圧縮積立金の積立						-	
固定資産圧縮積立金の取崩						-	
海外投資等損失準備金の積立						-	
海外投資等損失準備金の取崩						-	
別途積立金の積立						-	
剰余金の配当		△24,151				△24,151	
当期純利益		93,566				93,566	
自己株式の取得	△33,939	△33,939				△33,939	
自己株式の処分	5	4				4	
自己株式の消却	33,207					-	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			△7,828	1,403	△6,424	△6,424	
当期変動額合計	△726	35,479	△7,828	1,403	△6,424	29,055	
当期末残高	△4,441	825,839	25,936	△11,756	14,180	840,020	

個別注記表

東京瓦斯株式会社

平成27年 4月 1日から
平成28年 3月31日まで

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券については次のとおりであります。

子会社株式及び関連会社株式の評価は、移動平均法による原価法によっております。その他有価証券で時価のあるものの評価は、決算日の市場価格等に基づく時価法によっております(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております)。

その他有価証券で時価のないものの評価は移動平均法による原価法によっております。

② デリバティブの評価は、時価法によっております。

③ たな卸資産(製品・原料・貯蔵品)の評価は、移動平均法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産の減価償却の方法は、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)は定額法)を採用しております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

② 無形固定資産の減価償却の方法は、定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間に基づく定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金は、売掛金、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権は貸倒実績率により、破産更生債権等特定の債権は個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる金額を計上しております。数理計算上の差異は、発生の翌期に一括費用計上しております。なお退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

③ ガスホルダー修繕引当金は、球形ガスホルダーの周期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕見積額を次回修繕までの期間に配分して計上しております。

④ 保安対策引当金は、ガス消費先の保安の確保に要する費用の支出に備えるため、当期末後に要する費用の見積額を個別に計上しております。

⑤ 器具保証引当金は、販売器具の保証期間内サービスに要する費用の支出に備えるため、当期末後に要する費用の見積額を計上しております。

⑥ 債務保証損失引当金は、債務保証に係る損失に備えるため、被保証先の財政状態等を勘案し、損失負担の見積額を計上しております。

(4) 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

前事業年度において独立掲記しておりました無形固定資産の「ソフトウェア」、流動負債の「関係会社短期借入金」「関係会社未払金」「関係会社未払費用」は、科目を掲記すべき数値基準が、資産総額の100分の1を超える場合から100分の5を超える場合に緩和されたため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。

なお、この変更はガス事業会計規則第2条(様式第1)に基づくものであります。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産

投資有価証券	541百万円	
関係会社投資	9,662百万円	
長期貸付金	30百万円	
(担保に係る債務の金額)	—	(当社が出資する会社等の借入金の担保に供しております。)

(2) 減価償却累計額

有形固定資産	3,028,546百万円
無形固定資産	28,916百万円

(3) 保証債務等

保証債務	99,304百万円
------	-----------

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

売上高	238,240百万円
仕入高	321,950百万円
営業取引以外の取引高	15,087百万円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当期末自己株式数	6,700,416株
----------	------------

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因

繰延税金資産	退職給付引当金
繰延税金負債	その他有価証券評価差額金

7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社

会社名	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
TOKYO GAS AUSTRALIA PTY LTD	所有直接100.0	子会社	増資の引受(注1)	21,808	—	—
TOKYO GAS PLUTO PTY LTD	所有間接100.0	子会社	金融機関借入に対する債務保証(注2)	35,724	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)当社がTOKYO GAS AUSTRALIA PTY LTDの実施した増資を1株につきAUD1,000で引き受けたものであります。

(注2)プロジェクトの計画を十分考慮し、総合的に決定しております。

8. 一株当たり情報に関する注記

一株当たり純資産額	351円46銭
一株当たり当期純利益金額	39円02銭

9. 重要な後発事象に関する注記

(1) 自己株式の取得

当社は、平成28年4月28日に開催した取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得を行うことを決議いたしました。

自己株式取得の内容は次のとおりであります。

- ・取得する株式の数
100,000千株(上限;発行済株式総数に対する割合 4.2%)
- ・株式を取得すると引換えに交付する金銭等の内容及びその総額
現金、41,000百万円(上限)
- ・株式を取得することができる期間
平成28年5月2日から平成29年3月31日まで

(2) 子会社の合併

当社は、総合エネルギー事業を推進し、ガス料金の低廉化・お客さまサービスの向上、効果的な事業運営を目的に、当社100%出資の子会社の千葉ガス株式会社、筑波学園ガス株式会社を平成28年5月1日付で吸収合併いたしました。

- ・合併する子会社の名称
千葉ガス株式会社、筑波学園ガス株式会社
- ・合併の方法
当社に吸収合併
- ・合併で引継ぐ資産・負債等
千葉ガス株式会社：資産約15,000百万円、負債約4,000百万円
筑波学園ガス株式会社：資産約7,000百万円、負債約1,000百万円
合併に際し、抱合せ株式消滅差益が約15,000百万円発生する見込みであります。
- ・主な事業内容、売上高（平成27年度）
都市ガス事業 千葉ガス株式会社：約17,000百万円
筑波学園ガス株式会社：約8,000百万円
- ・合併の時期
平成28年5月1日

(3) 子会社株式の譲渡

当社は、新たなグループフォーメーション構築のため、平成28年4月1日付で、子会社である株式会社ガスター株式を同社による自己株式取得と合わせ、リンナイ株式会社へ譲渡いたしました。

- ・譲渡する相手会社
株式会社ガスター、リンナイ株式会社
- ・譲渡時期
平成28年4月1日
- ・当該子会社の名称、事業内容
株式会社ガスター（事業内容：給湯、空調、住設、倉庫事業）
- ・譲渡する株式数、譲渡価格、譲渡損益、譲渡後の持分比率
譲渡する株式数：749,800株
譲渡価格：約15,000百万円
譲渡益：約14,000百万円
譲渡後の持分比率：10%

10. その他の注記

関係会社投資有価証券評価損

当事業年度において、当社グループ持分100%のTG Barnet Resources LPが参画する米国テキサス州バーネット堆積盆におけるシェールガス開発事業について、ガス・原油価格下落の影響を踏まえた減損損失を計上したことに伴い、Tokyo Gas America Ltd. 株式の実質価値が下落したため、評価減29,225百万円を計上いたしました。

11. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。